

# HUGコミ

## 第14号

2010年11月

members3.jcom.home.ne.jp

発行元:NPO法人HUGこどもパートナーズ(東村山市秋津町) / FAX:042-397-1024 / E-Mail hug-partners@jcom.home.ne.jp / URL http://

## HUGこどもパートナーズの活動紹介・その14

### 協働を学ぶ会

東村山市内で、子どもの育ちや子育ての支援を中心に活動しているNPOが協力して運営しています。

#### ■「協働を学ぶ会」ができました!

発起団体はNPO法人HUGこどもパートナーズ、東村山子ども劇場、NPO法人東村山子育て支援ネットワークです。それぞれ市内で非常利な活動しています。

現代の生きづらい社会の中で私たちを必要としている多くの方に活動を届けるためには、行政との協力が必要なのではないかと時期を同じくして考えるようになり、「それならば、まずは市民と行政が協働するための理念や方法を一緒に勉強していこう」と、この会を立ち上げました。

#### ■まずは「一緒に学ぶ」から

協働がすすんでいる自治体や、専門家などから話を聞いたり、協働で活動しているNPOを見学したりして、市民と行政が公平な立場でおこなう協働のしくみを見つけていくことになった「学ぶ会」。毎月1回の運営委員会を行い、年2~3回の協働に関する勉強会をすることにしました。

また、ちょうど2010年4月東村山市に「市民協働課」が設置されました。市民協働課は文字通り行政と市民、市民と市民の協働・協力によるまちづくりの中心となる課でしょう。そこで協働課に市民と一緒に学びながら協働をすすめていくことを働きかけました。

HUGホームページ  
<http://members3.jcom.home.ne.jp/hug-partners/>

HUGブログ  
<http://wind.ap.teacup.com/npohug/>

トコトコ通信ブログ  
<http://news.ap.teacup.com/tokotoko/>



ブログも見てね!

「協働(きょうどう)」っていう言葉、聞いたことある? 文字通り、複数の団体がそれぞれの得意分野を生かし、力をあわせて働くこと。NPOなどの市民団体と行政とが、まちづくりや子育て支援などの分野で、一緒に地域課題に取り組むことを指すことが多いよ。財政難や地域サービスの多様化など、これからの時代には不可欠なくみだと言われているの。

コラボってことね♪



「コラボ」とかけて、  
「知恵や力(材料)の持ち寄り」とときます。

そのころは……  
「おいしい地域」ができるでしょう!

## 児童虐待の防止には 予防が重要

児童育成計画推進部会委員長  
日本社会事業大学 福祉援助学科教授

藤岡孝志さん

東村山市の児童育成計画推進部会とは、専門家や地域の委員が集まって、市の子育てに関する事業について検討する場です。

### 虐待支援と夫婦問題

「次世代育成支援行動計画」の後期計画の作成では、広く子育て支援について委員の方々と一緒に見直ししましたが、子ども虐待への対応についての項目にも力を入れました。子ども虐待領域での支援には予防が重要です。児童虐待は誰にも起こりうるもの。踏みとどまっていた人が虐待してしまつた場合、その時に必要な支援を受けられなかったからです。養育困難、育児ストレスなどを早期に解消することと同時に、子どもは

親だけで育てるのではなく、社会的な支援の中で育てるといふ一人ひとりの意識を高める必要があるでしょう。

近年、夫婦間に「子どもは両親で育てる」という意識が高くなつてきていると感じます。妻の負担軽減だけでなく、子育てを「人生の楽しみ」としてとらえる男性が少しずつ増えてきています。生きがいが多様化し、人生の成功=仕事の成功ではなくなつていきます。もちろん「男は仕事で家族を養い、女は家で子どもを育てる」という育児感覚にしばられていた人も、まだ少なくはありませんが…。

では、男性が「育児のために家に帰りたい」と言えるか。その決断には夫婦の関係性が左右しているようです。早く帰って心身ともによい状態で仕事をすることが効率的でも、「子どもの世話に妻がするもの」と思えば、残業を優先させるでしょう。実は、これは老後の安心や介護生活にも影響します。子育てで協力し合うなかで、お互いの違いを認め合い信頼することで、安心で楽しい老後を送れるのです。男性に理解されない子育てはつらいものです。「なぜ私だけが負担をしなければならぬのか」という不満「夫に理解してほしい」と思う気持ち。少子化に歯止めがかからないのは、この不満感を取り除いていないこと

にもあると思います。

学校教育などを含み、男女の子育てに対する意識を変えていく必要があり、それは政治や経済と別のところに解決の方法があると感じています。夫婦機能を高めることを意識したプログラムなどが必要なのではないのでしょうか。

### お母さんたちへ

人間にとつて、自分が役立つ存在だと感じることほど幸せなことはありません。子育ては、日々、おむつを替えたり、食事を手伝ったり、危険を防いだり、自分が役立つ存在であることを感じさせてくれるものです。子育てに迷ったら、そんな当たり前のように思えることでも、十分子どもの役に立っていることを思い出し、てください。

一方、親は、絶大な力を持つていることも忘れてください。どんなに頑張ることも子どもに代わってあげられない。周囲の顔色を見る子どもになるのではないのでしょうか。子どもの意思に反していることを無理強いすれば、人生にさまざまな影響を及ぼす可能性があります。今、たとえ育児がうまくいってないと思っても、そんなに苦しまないでください。子どもは完璧な親を求め

ていません。ダメなところもよくわかりながら、親を認め求めています。子どもだって、いたずらする時もあり、いい子じゃない時もある。お互いいろいろあって当たり前。それでも親子一緒に学び成長する(成長させるを得ない)のです。

もし何か変えたいと思うときは、親プログラムに参加したり、育児サークルに入って、お互いの子育ての違いを感じたり、いいところをまねたりしてみてください。

### 支援者へ

自分の「できていないこと」に焦点があつてしまつた人には「大丈夫。よくやつてるよ」と言っておいてほしいです。子育てには「この子は自分を必要としている」ということを味わうことが大切です。親が、子どもの役に立っていると実感を持てるような支援をしてください。育児サークルも有効です。

私たちの調査では、ぶたれて育つた人は子育ての選択肢の一つに「ぶつこと」がありますが、そうでない人は選択肢の中にそもそも「ぶつこと」がありませんでした。驚きました。育児は言葉の調整なんです。どんなときにどんな言葉を使えばいいのか、ぶつことに代わる能力を親が身につける手助けをしてほしいと思います。

●第2回勉強会●「協働のしくみを考える・第1弾  
東村山市における行政とNPOの協働事例発表」

日時:9月26日(日) 14~16時 / 会場:市民センター

参加者数:38名

事例報告:4つの協働事業の事例発表および、それぞれの課題をグループワークで検討



〈協働事例〉  
NPO法人東村山子育て支援ネットワークすずめ  
「子育て預かりサポート たんたん」

地域で子育てをしている保護者に対してリフレッシュし、安心して子育てができるように短時間の一時預かり行う。対象は1~3歳。9時から4時までのうち、3時間まで1人月4回まで利用可。無料。

NPO法人HUG子どもパートナーズ  
「2か月の赤ちゃん和妈妈のおしゃべりタイム」

産後、3~4ヶ月健診までは夫婦での子育てとなり、日中は母親が1人で子育てしているなか、孤独感や不安感が高まってしまふ。早期に集まる場を設けることで外出の機会の提供と不安の解消をねらう。

東村山子ども劇場  
「シンポジウム 私たちの街・東村山の未来を描く  
~ホンモノの協働を目指して~」

文化活動により人をつなぎ町を活性化することの学習。行政とNPO等の実行委員会方式で、協働で運営することが織り込まれた、文化庁による「文化芸術による創造のまち支援事業」の一事業。

市民協働課  
「ふれあいセンター」

市の施設を直営でなく、地域の自分たちの施設として地域コミュニティが自ら管理することによる自治意識の向上をねらう。またそのことにより、地域のニーズにあった事業展開ができる。

協働を学ぶ会

H22年度の活動報告

2回目は、東村山市で行政とNPOの協働をすすめていくためには、どのような課題があり、その解決には何が必要なのかということ、参加者みんなで考えてみようというワークショップ型の勉強会でした。

多くの市職員や関係団体からの参加者が頭をつきあわせて、実際の協働事例を材料に考え、てみました。

別の団体の事業内容を聞いて検討してみると、いろいろ、みんなはじめの経験でしたが、それぞれ深い議論ができた有意義な時間となりました。それぞれの立場に立ってのアイデアを出し合うことは、お互いのことを理解しあえるきっかけにもなると思います。

●第1回勉強会●「市民との協働が進んでいる自治体から学ぼう」

日時:6月13日(日) 10~14時 / 会場:市民センター

参加者数:54名

シンポジスト:三鷹市のNPO法人「子育てコンビニ」代表理事 小林七子さん

NPO法人みたか市民協働ネットワーク 事務局長 井上 仁さん

コーディネーター:企画政策課 東村課長

市民協働課 大西課長

午前中は、市職員とNPO3団体の参加者が席をともにする座席配置のなか、市職員の東村さんと大西さんの「コーディネート」で、シンポジストのお二人からお話をうかがいました。

その後、グループごとに自己紹介と簡単な感想質問を出しあいシンポジストに投げかけました。たくさん市職員のみなさんが参加してくれて交流もでき、これからの東村山に期待がふくらみます(市長あいさつもいただきました)。

午後はお昼を食へながら、みんなで机を囲み、午前中の感想を述べたり、小林さん、井上さんに率直な疑問を投げかけたり、自分たちの課題について発言したりしました。

■小林七子さん  
「三鷹市と協働するNPO法人の活動のよひ」

三鷹市が2000年に「みたか子育てねっと」というホームページをつくることになり、その中の市民が持ち寄った情報を発信するコーナーの制作ボランティア募集を見て応募しました。応募者60名のほとんどが子育て中の母親でした。それまで私は市民活動とは縁がありませんでしたが、私と同じように子育てで働けない女性の多さに驚き、問題意識を感じました。その後、2001年に会を発足、代表となりました(2002年に三鷹市ビジネスプランコンテストで商工会特別賞を受賞し、同年9月に法人化)。

法人の設立したものの、最初は計画書



※「子育てコンビニ」の主な活動  
みたか子育てねっと内子育てコンビニ運営、「赤ちゃんといっしょ!三鷹おでかけマップ」作成、みたか都市観光協会ホームページ作成更新など。http://www.kosodate.or.jp/

■井上 仁さん  
「三鷹市と市民の協働の理念およびそのしくみ」

1990年三鷹市の基本計画の策定にあたり「みたか市民プラン21会議」に市民委員を公募しました。375人の市民委員が集まり、10の分科会で約3年の会議

を経て報告書を作成しました。2002年、市民参加で「三鷹まちづくり研究所」をつくり、2003年「市民協働センター」ができましたが、建物ができなかったことがゴールではなく、どんな内容にしていけるかは、日々の課題です。

現在、三鷹市では「協働の日常化」がうたわれています。どこかの部署も「協働ありき」で、どこかの部署がまとめて協働の指揮を取っているわけではありません。

とはいえ、三鷹市の職員にも非常に硬い人はいます。柔軟な職員はアンテナを広げ、仕事以外のことも興味を持っています。ね。協働は「信頼関係から」だと思えます。課題も次々出てきますが、お互いに理解し相手を受け入れることが必要でしょう。行政職員として法律や条例に基づいて動く時は、「私の仕事は条例に基づいている」と言え、問題がおきても安心です。ところが市民協働センターは、「どんなことをどうやったらいいの」と協働について常に考える場。軸を持ちつつも柔軟な対応が求められる、ある意味行政の職員が非常に苦手な分野だと思えます。

私の最近の仕事は、センターに対する苦情の対応です。議会や質問が来て、神経も使いますが楽しくやっています。梅雨を「じめじめして嫌だ」という人もいれば、「恵みの時期」と思う人もいます。物事は多面的に考えていった方がいい。

現在は価値観が多様化しているので、一方的な意見は理解されないことが多いですね。市民団体も多面的な考えで職員等と話をし、上手にいかなくてもその経験を積み重ねていってください。そうして、できていくのが協働だと思います。

雑記報

■猛烈に暑くて長かった夏も、ずいぶん前のことのように思います。疲れと急な寒さで体調を崩す方も多いようですが、みなさまお元気でしょうか。■今号は、「協働を学ぶ会」の報告が中心です。なんのこともやらさず「...」という方が多いとは思いますが、実はこれからの時代に必須の課題。まちづくりにおける協働の主体は「市民」です。私たち一人ひとりがまちづくりにかかわっていくことが大切になってきています。来年度も勉強会を開いていく予定なので、興味のある方はご参加ください。■公民館との協働事業「赤ちゃんとおしゃべりタイム」(全6回講座)。後期の秋津バージョンが11月5日から始まりました。募集を超えた親子が参加してくれています。■子育て情報誌「トコトコ通信」は、おかげさまで12月号で100号を迎えます。子育て中のママたちが同じ子育てのママ達へと発行し始め、世代交替を経ての活動に拍手! 毎月折り込みのお手伝いに来てくれる皆さんの応援あつてのトコトコです。11月25日の印刷日には簡単なお祝いの会も。詳しくはトコトコ通信を見てください。■来年は市長と市議会議員の選挙もあります。HUGとしても注目しています。■少し早いです。今年も大変お世話になりました。皆様、よいお年をお迎えください。